

ITU第2回無線通信部門会議に出席して

国際電気通信連合 (ITU) の第2回無線通信部門会議として1995年10月16日から無線通信総会 (RA) および世界無線通信会議 (WRC) が開催されました。その模様をお伝えします。

参加しました。なお、第1回無線通信総会は1993年11月開催(本誌Vol.1 No.3およびVol.2 No.1参照)され、2年ごとに開催されます。

会合は、今会期 (1993~1995年) 中における各研究委員会 (SG: Study Group) の活動報告の審査およびこれらの報告の中での勧告案の審議、研究課題の審議、無線通信部門 (ITU-R) の組織および作業方法の見直し、来研究会期 (1995~1997年) の作業計画などの審議、ならびに各SGの議長および副議長の任命が行われました。

第2回無線通信総会

無線通信総会は無線技術の技術的問題を討議する会合で、第2回無線通信総会 (RA-95) は、10月16日~10月20日、スイスのジュネーブで78カ国、13国際機関 (例えばインテルサット) から約350名が参加して開催されました。日本からは郵政省の小林国際機関課長を団長に34名が

SGの構成について、他のSG間の調整を行い、業務間での周波数の共用を扱う目的で設置された第2研究委員会 (SG-2) の廃止が提案され、承認されました。SG-2の担務は基本的に関連業務間のジョイント・スタディ (共同研究) で行うが、それが困難な場合のみ第1研究委員会 (SG-1) で行うことが、次回無線通信総会で見直しを行うことを前提として承認

まえだ ゆたか
前田 穰

表 RA (無線通信総会) のSG構成

SGなど		主たる研究課題	議長	副議長
SG-1	周波数管理技術	周波数有効利用技術 周波数管理、監視業務 周波数共用および両立性	R.Mayher (米)	R.N.Agarwal (印) T.Jeacock (英) N.Kisrawi (シリア) A.Pavliouk (露)
SG-3	電波伝搬	非電離媒質内電波伝搬および電離媒質内電波伝搬	L.W.Barclay (英)	D.G.Cole (豪) F.Fedi (伊)
SG-4	固定衛星業務	軌道周波数の有効利用 FSSとFS間の周波数共用 FSSと他業務間の周波数共用	E.Hauck (スイス)	J.M.P.Fortes (ブラジル) 伊藤泰彦 (日)
SG-7	科学業務	電波天文 科学衛星	H.G.Kimbal (米)	G.Dejong (蘭) J.Saint-Etienne (仏) J.B.Whiteoak (豪)
SG-8	移動、無線測位、アマチュアおよびこれらの衛星業務	FPLMTS 移動衛星 (MSS) MSSと他業務間の周波数共用	E.George (独)	A.A.AiDarrab (サウジ) 平田康夫 (日) O.Villanyi (ハンガリー)
SG-9	固定業務	固定通信 FSS, MSSとの間の保護基準	室谷正芳 (日)	G.F.Hunt (米) V.M.Minkin (露) R.D.Coles (加)
SG-10	放送業務 (音声)	デジタル音声放送 (衛星, 地上系)	A.Magenta (伊)	H.M.Joshi (印) H.Kussamann (英) L.Olson (米)
SG-11	放送業務 (テレビジョン)	HDTV デジタルテレビジョン	M.Krivocheev (露)	西澤台次 (日) R.Zeitoun (加)
CCV	用語のための調整委員会	用語の定義	J.Schwob (仏)	A.N.Heightman (英) P.Garcia-Barquero (スペイン)
CPM	会議準備会合	将来の世界無線通信総会 (WRC) の審議事項に沿ったSG研究結果のとりまとめ	R.Taylor (米)	R.N.Agarwal (印) T.Boe (ノルウェー)

*SG-2, 5, 6は欠番

されました。SGの構成と議長・副議長を表に示します。日本からは、議長1名、副議長3名が再選出されました。

NTT DoCoMoに関連の深い第8研究委員会(SG-8)の次会期の主な研究課題は、2000年のサービス開始を目指したFPLMTSや非静止衛星による移動衛星業務(周回衛星)など、グローバルシステムの研究が中心になると考えられます。

第2回世界無線通信会議

世界無線通信会議は、RR(国際電気通信条約附属無線通信規則)の規程・手続きなどを議論する会議で、第2回無線通信総会世界無線通信会議(WRC-95)は、10月23日～11月17日、143ヵ国から約1,300名が参加して開催されました。日本からは郵政省の電波部長を団長に54名が参加しました。

会議は、主にRRの簡素化と移動衛星業務(MSS)の導入を促進するための規程の整備をテーマ(これらの議題はWRC-93で決められたもの)に行われ、1997年開催のWRC-97の議題を決定および1999年開催のWRC-99の仮議題の検討も行われました。主な結果は、次のとおりです。

(1) 技術開発に伴う柔軟な対応のための手続き簡素化を目的としたRRの全面改定

部門、分野ごとに一体化して、冗長な表現・情報的な規程の削除・統合などの体系化を行い、大幅な簡素化が行われました。

①ITU-R勧告の参照による規定値・情報などの削除

②周波数分配表および脚注の簡素化

③周波数の国際調整・登録手続きの簡素化

④個別業務の運用・管理規定、監視業務に関する規程

(2) 移動衛星業務(MSS)導入を促進するための周波数の決定、手続きの整備

①周回衛星によるMSSフィーダリンクの周波数の決定

周回衛星(静止衛星に比べ低い軌道:数百km～1万km)は、低い位置にあるため、信号が地上から衛星を介して、また地上に戻ってくるまでの時間(遅延)が短く、出力も小さくて済むため、より小型の機器で遅延の短い通信が可能となります。このシステムは、端末～衛星間(サービスリンク)用の周波数と衛星～地上系ネットワーク間(フィーダリンク)用の周波数が必要で、今回はフィーダリンク用の周波数を決定しました(サービスリンク用の周波数は、WARC-92(1992年世界無線通信主管庁会議)ですでに決定)。

②2GHz帯(1980-2010MHz, 2170-2200MHz)のMSSの導入期日

2005年の使用開始時期を2000年1月1日に前倒しする決議が採択されました。ただし、既存システム保護のための決議も同時に採択されました。

③MSSと他業務との周波数共用問題

周回衛星を含めたMSSと他業務の共用に関して、SGでの検討が不十分のため、一部周波数帯を除き、共用基準は仮設定の形でまとめられました。また、1.5GHz帯の第2地域(アメリカ大陸等)におけるMSS分配について、日本の移動業務の保護のための干渉許容基準を盛り込みました。

(3) 周回衛星による固定通信システムの周波数の決定

高速データ伝送が可能で有線系の通信網がない地域へ安価に通信手段を提供可能という特徴により、発展途上国などの支持を得て周波数が決定されました。

(4) WRC-97の議題およびWRC-99の仮議題

WRC-97において衛星放送プランの見直し、および短波放送のための周波数使用手続きの検討、全世界的に周回衛星で使用可能な周波数帯の検討などを行うことが決定されました。また、WRC-99の仮議題としてHF帯の周波数配置の見直しなどを行う予定です。